埼玉県特集

先端産業の集積へ

上田　清司 埼玉県知事に聞く

さまざまな先端産業の集積を目指す埼玉県の「先端産業創造プロジェクト」が2年目を迎えた。「通商産業政策の地方分権化」の中核をなす事業で、ナノカーボン、医療イノベーション、新エネルギー、ロボット、航空・宇宙を重点5分野に設定。２０１５度は14年度の2倍となる18億４２００万円の予算を組み、1件につき２０００万円を上限とする補助金など新たな取り組みも始めた。上田清司知事にプロジェクトへの思いを聞いた。

プロジェクト2年目に

優れた技術で高付加価値製品を
重点5分野設定、補助金も引き上げ

―今後の生産年齢人口の減少を受け、県は「稼ぐ力」をつける必要があると主張しています。

「長期トレンドがどうなっているかを意識している。常に長期トレンドと中期的な対応、リーマン・ショックのときのような短期的な対策を分けて考えている。トレンドとして顕著なのは働き手が減っていくことだ。日本の平均より5年ぐらい遅れるが、埼玉県もそういう傾向が続く。それをカバーするには、シニアの人にもう少しがんばってもらい、一人一人の生産性を上げるしかないという認識がある。県としても『健康長寿埼玉プロジェクト』や『埼玉版ウーマノミクスプロジェクト』に取り組み、成果を上げている」

「また、これまで県は融資制度を変えたり、創業ベンチャー支援を行ってきたほか、企業誘致も積極的に進めてきた。（05年1月以降の）企業立地件数が８００件となり、新規雇用者数は（企業の計画ベースで）約２万７３００人、投資総額は約１兆２０７７億円に達している」

―「先端産業創造プロジェクト」については。

「残念なことに、いままで埼玉県は『中小企業支援』『農林水産業支援』など『支援』という言葉を使ってきた。産業政策は国がやっていて、県はそれに補助的に関わるというイメージがあった。正直、それでは弱い。小さな町や村では難しいけれども、県レベルだったら積極的に産業政策に取り組み、産業をつくらなくてはいけない」

「これからの産業は何なのかを見抜き、あるいは見抜けなくても可能性のある分野を手がける必要があるが、どうしてもリスクがある。リスクをなければつくれないものができない。より付加価値の高い製品を生むには金をかけないといけないところもある」

「15年度は（補助金の上限額を）２０００万円まで引き上げ、もう一段高いレベルの実験をやってもらいたいと考えている。すでにいいところまできているものもある」

―「先端産業創造プロジェクト」では重点5分野を設定しています。

「ナノカーボンには鉄よりも軽くて強い、加工しやすい、腐食しないなど多くの優れた性質がある。すでに実用化されているものもあり、比較的早く（製品化に向けた）結果が出やすい。医療イノベーションは高齢化社会なので必ず起こるし、県内に集積する医薬品、化粧品、バイオ、レンズの分野ともつながっている」

「また県内には輸送機械関係の工場も多い。自動車には3万点の部品が使われているが、航空機はその１００倍の３００万点と言われている。それだけたくさんの工場などが集積する可能性があり、取引するチャンスがあるとなると航空機にも目をつけざるを得ない。新エネルギーはすでに早稲田大学などと組み、蓄電システムの新しい仕組みをはじめとした研究開発を進めている。ロボットは県内のさまざまなところで使われている。人件費が高いから代わりにロボットにというところもあるし、食品加工関係ではより安全で、より清潔にするためにロボットの方が都合がいいということで、大なり小なりロボット化している。そういった蓄積も最大限、生かしていきたい」

彩の国 主要幹部に聞く

企画財政部長

中原　健一氏

先手先行の課題解決

本年度の予算は「課題解決　先手先行予算」と銘打ち、人口減少・超高齢化や経済のグローバル化による産業構造の変化といった本県が今後直面する課題に先手を打っていくものとしている。

具体的には、新たな産業の創出などにより県内企業の「稼ぐ力」を育てる「通商産業政策の地方分権化」と、「超少子高齢社会を見据えた施策」を進める。

また、「エコタウン」「ウーマノミクス」「健康長寿」の三大プロジェクトをはじめ、4年目を迎える「埼玉県5か年計画」の12の戦略について、さらに取り組みを加速・深化させていきたい。

攻めの企画と規律の財政をバランスを取りながら連動させ、将来を見据えた施策を展開していく。

総務部長

飯島　寛氏

県財政支える税収を確保

「安心・成長・自立自尊の埼玉」の実現に向けて、しっかりと税収を確保していく必要がある。

個人住民税については給与からの特別徴収を徹底するため未実施事業者を全県一斉で特別徴収義務者に指定していく。これは九都県市が連携した取り組みであり、本年度は本県、２０１６年度に神奈川県、千葉県、17年度に東京都で実施される。

また、県有施設の老朽化も課題である。昨年度策定した県有資産総合管理方針に基づき、具体的な老朽化対策に県庁全体で取り組む。建物の性能や将来ニーズなどを踏まえた施設の総合評価を実施し、今後の維持管理方針や修繕計画を決定する。これにより県有施設の一層の利活用や予防保全などによる維持管理の効率化を目指す。

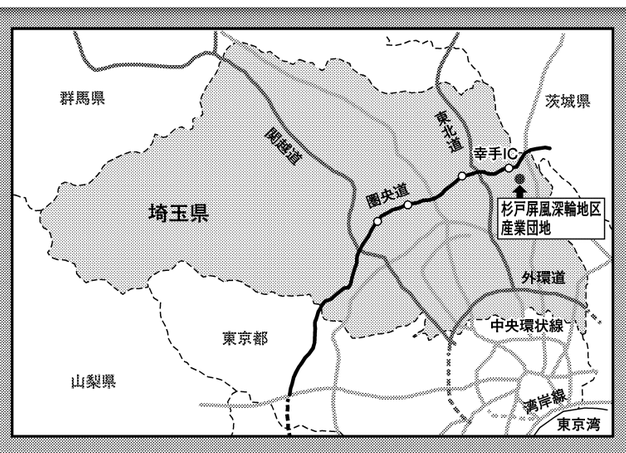
チャンスは今、立地するなら埼玉へ　杉戸屏風深輪地区 産業団地分譲予定!!!

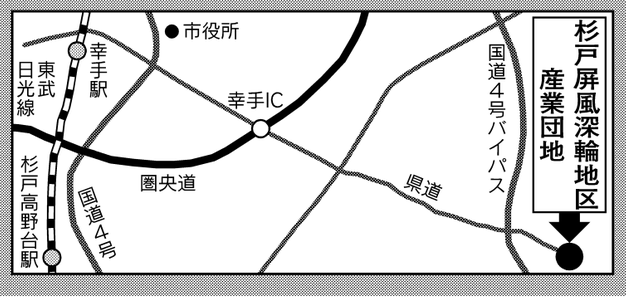
埼玉県では、人気の圏央道沿線で新たな産業団地を整備しています。事業用地を検討の際にはぜひお問い合わせ下さい。

予定地の概要

杉戸屏風深輪地区産業団地は、都心から約40㎞圏の杉戸町東部に位置しています。
また、圏央道幸手ICから約５㎞、国道４号や国道４号バイパスに近接した交通アクセスの良い立地環境です。

団地面積	24.0ha
所在地	北葛飾郡杉戸町大字屏風地内及び深輪地内
道路網	国道４号バイパスから東へ約450m、国道16号から北へ約６㎞、圏央道幸手ICから約５㎞
鉄道	東武伊勢崎線 東武動物公園駅から約6.5㎞
地区内道路幅員	14m
地形	ほぼ平坦な田園地帯





埼玉県の企業立地優遇制度

埼玉県では産業立地促進補助金として、不動産取得税相当額を交付する制度を設けています。
詳しい内容は、次の担当までお問い合わせください。
埼玉県企業立地課　総務・立地窓口担当　　Tel：048－830－3800

彩の国 埼玉県企業局地域整備課

〒330-0063　さいたま市浦和区高砂3-14-21
管理・営業担当 Tel：048-830-7123
https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/c1303/index.html

県のマスコット「コバトン」